

# アメリカ カリフォルニア・リバーサイド大学

[2024年9月～2025年3月]

経営学部4年 池上 直雄樹

こんにちは、経営学部所属4年の池上直雄樹です。  
私  
は2024年秋から半年間、アメリカの University of California, Riverside に約6か月間留学をしていました。この半年間で感じたことや私がどのように留学生活を送っていたかを紹介したいと思います。



## [授業]

初めに、授業について紹介します。私はアメリカのUCRに通っていました。授業は、1日3コマあり、朝9時から16時の間に行われます。クラスはいくつかあり、自分の英語力に合ったクラスに配属されるので、安心して学ぶことができます。主に授業は文法を中心に進められ、文の作りやパラグラフの構成を学びます。実際に文章を書く機会も多く文章への理解を深めることができます。さらにグループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会も多くあります。3コマ目の授業ではアメリカの文化について学びます。また、各々が自国についてのプレゼンテーションを行う機会もあるため、多文化を学ぶこともできます。学校には、様々な国から留学に来ています。私のクラスには中国、台湾、クウェート、ブラジル、アンゴラからの留学生がいました。休み時間には多くの言語が飛び交っています。先生の話も理解しやすく、フレンドリーに接してくれるので英語を学ぶのにいい環境です。授業中は各国の様々な意見を持っている留学生たちとディスカッションを行うので、多様性があって、とても楽しかったです。また、ただ座って授業を聞くだけではなく、わからなかったらその場で聞くことが重要であり、日本人とは違い周りに合わせることなく一人一人の性格が現れていました。日本とは全く異なる環境で学習できるので、語学以外も伸びすことができました。



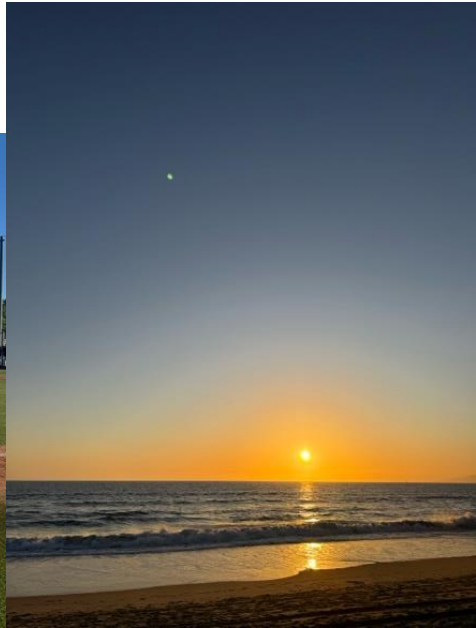
### 「ホームステイ」

次にホームステイについて紹介します。ホームステイは、留学する前に大まかな希望を出すことはできますが、ホームステイ会社によって選ばれるので、若干運の要素があると思います。同じクラスに、ホームステイを利用している日本人学生が3人いました。そのうち2人のホームステイ先ではパーティーがあったそうですが、1人の学生のホームステイ先ではイベントは行われなかったそうです。私のホームステイ先は大きく、比較的裕福な方々が住んでいるエリアに位置していました。そのためか、バースデーパーティーなどのイベントはとても豪華で、家に招待客が約100人も来たり、DJや写真ブースが設けられたりと、貴重な経験をさせていただきました。ホストファミリーには、様々な国出身の人がいます。私のホストファミリーは、ホストファーザーがメキシコ人で、ホストマザーがイングランド人でした。家では、私以外はスペイン語で会話していたので、英語とスペイン語の違いを感じる生活を送っていました。料理は主にイングランド料理が出ましたが、イベントの時は主にメキシコ料理が出てきました。時々、私の口に合わない料理が出てくることもありましたが、今となってはとても良い思い出です。家は10人以上が住んでも問題なく生活できる2階建ての大きな家でした。2階は私だけが使っていたので、リラックス出来る環境にありました。



## 「課外活動」

次に課外活動について紹介します。課外活動には数えきれないほどの多くの思い出があります。放課後はジムに行ったり、香港からの留学生たちが結成している野球クラブに参加したりして、現地の人や学生と関わる機会を積極的に作っていました。野球クラブでは共通のスポーツを通じて交流を深めることができ、現地の学生の考え方やコミュニケーションの違いを実感しました。それに加えて野球クラブでできた友達と休日に遊びに出かけたりもしました。週末の金、土、日曜日は学校が休みだったため、現地の学生と遊んだり、ロサンゼルスへショッピングをしに行ったり、ビーチへ出かけたりして過ごしました。特にビーチは、日本では見るできないほど広く美しかったです。長期の休みには、ニューヨークも訪れることができ、アメリカの異なる都市の雰囲気や文化を体験しました。こうした経験を通じて、多様な価値観を学び、自分の視野を広げて行動する楽しさを学びました。



#### 「最後に」

最後、皆さんに伝えたいことがあります。もし今、あなたが留学に迷っているなら、私は迷わず挑戦すべきだと思います。もちろん、簡単なことではありません。しかし、勇気を出して新しい環境に飛び込むことで、自分自身が大きく成長できるはずです。異文化に身を置くことには、日本では経験できないことがたくさんあり、異なる文化や価値観に触れることで、自分の視野も広がります。実際に私も留学を通じて大きく成長したと感じています。また、将来の選択肢を広げるきっかけにもなるでしょう。このような貴重な時間を持つのは大学生の間だけかもしれません。だからこそ、今このチャンスを逃さず、ぜひ挑戦してほしいと思います。

